

校訓	自分を育て 自分を生かす 社会を明るく	令和2年度 学校だより 「天の子」 第15号	発行日	令和2年12月15日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の意志・判断で自ら責任をもつ行動する態度を育てる～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【新型コロナウイルス感染症拡大防止】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係るご協力については、令和2年11月5日付けにて、プリントやホームページ、コロナに負けるな！通信、保健だよりでお願いしているところですが、再度、ご協力をお願いいたします。

感染拡大防止の観点から、①生徒やその同居者が濃厚接触者に特定された場合や、②保健所等の指示により PCR 検査を受ける場合は自宅待機することとしております。

また、生徒やその同居者が濃厚接触者に特定された場合や PCR 検査を受ける場合は、決まった時点で、速やかに学校までご連絡ください。

なお、同居者が濃厚接触者に特定された場合、又は保健所等の指示により PCR 検査を実施した場合は出席停止としております。(同居者の陰性が確認されるまでの期間)

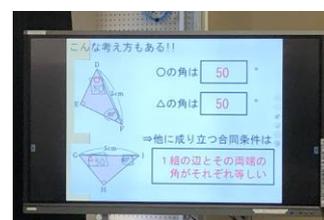
【強い人間】

南極などの厳しく、苛酷な自然環境を探検する極地探検家の C・W・ニコルさんによると、人間が生き抜くことがとても困難な極地で、どういうタイプの人間が一番辛抱強く、最後まで自分を見失わずに耐え抜けるかという興味深い記事がありました。みなさんは、どのような人間を想像しますか。そこには、必ずしも強靱な体を持つものではないと言われています。それは、極寒の地にあっても、身だしなみを整え、顔を合わせると『おはよう』と挨拶ができたり、食べるときには『いただきます』と言えたり、いわゆる社会的マナーをしっかりと身につけた人が意外にしぶとく強く、厳しい生活環境のなかで最後まで弱音を吐かないそうです。過酷な環境や状況にあっても礼節を守り、いまなすべきことをきちんと実行できる人、基本的なことを黙々と実行・実践できる人こそが、本当に「強く」「しぶとく弱音を吐かない」「言い訳しない」人のようです。これから、様々な困難や試練に遭遇するかもしれませんが、紳士淑女（しんししゅくじょ）の態度で乗り越えていただきたいと願っています。 ※ 紳士淑女…高い教養と品格を持った、礼儀正しい男性と女性。



【タブレット端末の導入】

新聞等で、GIGAスクール構想による1人1台のタブレット端末が導入されると報道されると言われています。本校においては、1月頃を目途に整備され、すべての子どもたちにタブレット端末を配付することができ、授業等で有効に活用できます。現在、市教育委員会の協力を得て、すべての教室に大型電子黒板を配置し資料や写真、グラフ、動画等を電子黒板に映し出しだしたり、拡大し



て見せたりして、わかる授業づくりに努めています。さらに、タブレットを活用することができれば、一人ひとりに応じた個別の最適な学びや多様な学習活動も行うことができます。仮に、臨時休業になっても、子どもたちの学びを止めないで済みます。

現在、効果的なタブレット活用ができるように、全国のセミナーや講演会等で活躍されている京都大学 石井英真准教授と連携したり、市教育委員会にご指導いただいたりしながら、少しずつ導入を進めています。そのため、毎週、京都大学の修士課程のゼミ学生2名が来校して、2年生数学Cクラスの授業に入り研究を重ねています。私は、毎日各教室を回りながら、子どもたちのタブレット使用している状況を見ています。子どもたちは、教師が考えている以上に飲み込みが早く、手際よく使用することができます。1月12日(火)～14日(木)に密を避けながら、3日間のオープンスクールを開催する予定です。是非、この機会に子どもたちの授業の様子を見にきてください。



授業で使用しますので、基本、学校にタブレットを置いておきますが、タブレットの活用が進めば、家庭におきまして、子どもたちは見たことのないアプリケーションを使用する機会を目の当たりにすることがあるかもしれません。保護者のみなさまも尻込みせず、子どもたちに話しかけ、一緒に楽しんでもらいたいと思います。今までは、わからないことを調べるときに辞書や図鑑等を活用することが、当たり前でありましたが、インターネットを使用して調べることの方が多くなると思います。大事なことは、「調べた内容について理解し、自分の言葉で表現すること」が求められます。ですから、調べたことについて、「何と書いてあったの」「何がわかったの」「どう思ったの」などと聞いて一緒に考える機会を持ってもらいたいと思います。

<タブレット活用による効果>

- ① 生徒の学習に対する興味、関心を高めることができる。
- ② 生徒一人ひとりに課題を明確につかませることができる。
- ③ 生徒の思考や理解を深めることができる。
- ④ 学習内容をまとめる際に、生徒の知識の定着を図ることができる。
- ⑤ 生徒がわかりやすく発表したり、表現したりすることができる。
- ⑥ 生徒が自分の考えを文章や表、図にまとめることができる。

【試験会場にコンピューターの持ち込み】

アメリカでは、大学入試の試験会場にコンピューターを持ち込むことができる大学があります。グーグルがあるから、歴史の年号等を暗記して知識として頭の中になくてもいいのです。大学入試の目的が暗記ではなく、クリティカルシンキング(物事の本質を捉える考え方)を重視しているからだそうです。今後、AIがますます進歩しますが、物事を自分で判断し、どう解釈して色々なものを組み合わせて考えることは人にしかできないことです。今後、日本でもそのような大学入試制度を取り入れるかもしれませんね。一方、2030年の学びのキーワードである主体性を持たせることが必要であると言われていています。そのような学びをしていくためにも、知識をどのように活用するのかが問われています。そこに、予測困難な時代を逞しく生き抜くことができる子どもを育てることにつながります。

